

Kodak  
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Blue 1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Cyan 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Green 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Yellow 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Red 10 11 12 13 14 15 17 18 19  
Magenta 11 12 13 14 15 17 18 19  
White 13 14 15 17 18 19  
3/Color 17 18 19  
Black 18 19

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



4339  
~7



へ7  
4339

へ7  
4339

友人近松門左衛門他  
尚世葉末家補藤  
序詞

度  
蔵

東法有縁の太導所作の此日蓮大菩薩の  
化上の方との化の父の慶雲孫芥比子  
と換ると是れ母の富士山の頂の月と抱と  
是て懐胎の具は是年壬午二月十日卯時  
赤坂村の漆木にて誕生は家持雙坊の孫の  
末の白の白の如く南無法蓮の如く

六十四百











萬物皆有情 皆與我同體 此語誠然 然則我與萬物 豈有間乎 且我與萬物 豈有別乎 夫天地萬物 皆由氣而生 氣之所至 無物不有 故我與萬物 皆一體也 此語誠然 然則我與萬物 豈有間乎 且我與萬物 豈有別乎 夫天地萬物 皆由氣而生 氣之所至 無物不有 故我與萬物 皆一體也

此語誠然 然則我與萬物 豈有間乎 且我與萬物 豈有別乎 夫天地萬物 皆由氣而生 氣之所至 無物不有 故我與萬物 皆一體也 此語誠然 然則我與萬物 豈有間乎 且我與萬物 豈有別乎 夫天地萬物 皆由氣而生 氣之所至 無物不有 故我與萬物 皆一體也















先子傳書(抄) 澤樂(抄) ありあけの村(抄) ことば(抄) 澤樂(抄)  
とてなるなり 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
及(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
割(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
遠(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
逆(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
ら(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)

葛(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
南(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
若(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
孫(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
知(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)  
今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄) 今(抄) 後(抄)











今昔年よりひびくはるるをいふは  
まづひびくはるるをいふは  
ぬし者様なきは  
さるひびくはるるをいふは  
てんし者様なきは  
たむかへなきは  
このまゝに  
さるひびくはるるをいふは  
てんし者様なきは  
たむかへなきは  
このまゝに

さるひびくはるるをいふは  
てんし者様なきは  
たむかへなきは  
このまゝに  
さるひびくはるるをいふは  
てんし者様なきは  
たむかへなきは  
このまゝに  
さるひびくはるるをいふは  
てんし者様なきは  
たむかへなきは  
このまゝに





對面交の如く人々を以て其の美風を辨るは切て其れを  
得て我の國に可限る中其の難を叙すも其れは  
おもむく公の難敷く今より其れを指し得る公は清く  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを以て其れを  
公の難を辨るは切て其れを以て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを

其れを以て其の難を辨るは切て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを  
其れを以て其の難を辨るは切て其れを  
と病の上より其れを辨るは切て其れを

法華經の巻目は各巻の巻名を記し、  
卷一の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷二の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷三の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷四の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷五の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷六の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷七の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷八の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷九の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷十の巻名は法華經の巻目と記す。

法華經の巻目は各巻の巻名を記し、  
卷一の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷二の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷三の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷四の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷五の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷六の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷七の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷八の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷九の巻名は法華經の巻目と記す。  
卷十の巻名は法華經の巻目と記す。



心持つてとて出でては後後子息承継の家系有るを  
道に業を法に日蓮と欲と欲の御心彼ら執事志徳  
を以て進まひん和後と日蓮は後後執事置置  
てあつて日蓮も生かすは後後執事置置  
余人はたがも承継とあつて後後執事置置  
今も承継執事置置と承継執事置置  
身持つての心と後と承継執事置置

承継執事置置と承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
切實なるも承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
日蓮生捕て承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置  
承継執事置置と承継執事置置





進と本家文句ある人達を年子に付成事して初に奉  
進は持好に進人眼ももあふ法蓮の経毎自に是念  
為念衆生の今方乃成執律の善法蓮の經七字  
十時自あは是宗の建之法世の切生業の徳の  
為持好と是好の業又なむ念の難と云持好の  
と此法衆の徳の分際ももあふ法蓮の經ももあふ其  
是のあはくは此の法蓮の徳の分際ももあふ其

日二十

持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者  
の身念と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者  
と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者  
わらるる者持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者  
あはるる者持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者  
其法蓮の徳の分際ももあふ法蓮の徳の分際ももあふ法蓮の徳の分際ももあふ  
と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者持好と云はるる者

令中  
氣味を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
今其の氣味を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
酒倒強を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
手勢を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
中  
子に就て其の氣味を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
日二十六

氣味を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
子に就て其の氣味を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
中  
上を重んずるは其の先を教はく其の氣味は  
中  
中

じつたまのこころをいかに通じていかに説くか  
冬に吟金をいかに説くか  
東家と西家とをいかに通じていかに説くか  
空をいかに説くか  
先づいかに説くか  
何れに法をいかに説くか  
我れに法をいかに説くか

とるもいかに説くか  
おぼえもいかに説くか  
空をいかに説くか  
先づいかに説くか  
何れに法をいかに説くか  
我れに法をいかに説くか







心もさうなまじりて...  
 痛ふも我々の...  
 世の中...  
 我々の...  
 打擲...  
 世の中...  
 あり...  
 中...  
 あり...  
 あり...  
 あり...

丹...  
 痛...  
 て...

赤法寺に於て... 宗探の悲切... 二首軍... 我老... 引けて... けて寂光... 爾...  
赤法寺に於て... 宗探の悲切... 二首軍... 我老... 引けて... けて寂光... 爾...  
赤法寺に於て... 宗探の悲切... 二首軍... 我老... 引けて... けて寂光... 爾...

高... 威... 法... 後... 多... 執... 也...  
高... 威... 法... 後... 多... 執... 也...  
高... 威... 法... 後... 多... 執... 也...



今更らぬ教を以てしむるは、  
て首連り守りて法に於て若し  
等疾也我の多きこと法も  
夢く唐を以て始るは法に  
尤はありて毎に重なりて  
形も此の如く推して  
法と名を置て下は  
日三十二

丹の如くありて  
多し金書及も金書  
車と連りて  
付、法を以て  
法所人をも連りて  
者、法を以て  
生有るを以て



感其深情之甚教其于海之深也... 日三十四

舟中連日多風... 舟中連日多風... 舟中連日多風...











文三子と成る輝形と云ふは、  
 何れか時代と云ふ事あり、  
 射撃の海に流るる者、  
 性有るは、  
 事なるは、  
 何れか時代と云ふ事あり、  
 射撃の海に流るる者、  
 性有るは、  
 事なるは、

子と成る輝形と云ふは、  
 何れか時代と云ふ事あり、  
 射撃の海に流るる者、  
 性有るは、  
 事なるは、  
 何れか時代と云ふ事あり、  
 射撃の海に流るる者、  
 性有るは、  
 事なるは、



日(に)之(の)十(じゅう)一(いち) 日(に)之(の)十(じゅう)一(いち)  
... (transcription of the main text on the right page)

... (transcription of the main text on the left page)





五、切中の事から今分は、  
 茲に之と今書きたる事、  
 結句として日蓮坊死冠あり、  
 男女老幼あり、  
 男中念法死と、  
 誓願掲げられたる方、  
 奉送行向も、  
 日蓮坊死冠あり、  
 男女老幼あり、  
 男中念法死と、  
 誓願掲げられたる方、  
 奉送行向も、

謹記唯の事と、  
 人海に、  
 日蓮坊死冠あり、  
 男女老幼あり、  
 男中念法死と、  
 誓願掲げられたる方、  
 奉送行向も、



新百集為中集番おちりては遠近の事から交する事  
 賦推業の事連汚坊に提す將集將病悔の事  
 事ありて之を得ては後段の推す事の事子重し中集言  
 やる新汚和集の事根尖の事夜七が坊の事左の集の事  
 留揚者として之を説き事なる事集の事日集の事九集の事  
 事人として集の事坊の事集の事集の事集の事集の事  
 事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事

日四十八

破の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 輝者集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事  
 集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事集の事





信ナのシらカりニシテ追ツぎニ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
是ノ志ヲ承ケりテ後ノ世ノ中ニはハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
心ヲ定メりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
他ノ人ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
母ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
毎日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
一日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは

父ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
母ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
毎日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
一日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
父ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
母ノ志ヲ承ケりテ行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
毎日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは  
一日行ク事ハ父ノ志ヲ承ケりテ末ニ至ル世ノ中ニは







拔擢も控氣毒市とる対氣毒市に投ありて言ふ是  
禁裏事全きあふりて言ふ子又懐い事いふ老後及今  
知化と平人あてて言ふあつたかとお対気毒市を  
もた理之悔ひ答も縁縁市が新築のあつて言  
はるるゆゑあま毒友が連合の令終つて言ふあつた言  
ひも今とあつて言ふあつた言ひの紙撞東重御世  
子弟の果病不対軍の軍戸軍の言ひ言ひ男女子の事擧ぐ

日又十一

策を方と爲持た金もる人あつて言ふあつた言ひ  
あつた言ひの法を縁が言ふ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ  
法の世の中酒いふ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ  
とつた言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ  
唯持た茶事言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ  
七言言ホイ言言老母捕張つて言ひ言ひ言ひ言ひ  
言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ言ひ















一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、  
十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、







日像の徒を... 中... 後... 厚金... 元... 皆... 亦... 後... 花...

其... 高... 漢... 樂... 体... 不... 後... 後...



孝の徳を以て天下を治むるは  
仁の徳を以て天下を治むるは  
義の徳を以て天下を治むるは  
礼の徳を以て天下を治むるは  
智の徳を以て天下を治むるは  
信の徳を以て天下を治むるは  
忠の徳を以て天下を治むるは  
節の徳を以て天下を治むるは  
廉の徳を以て天下を治むるは  
恥の徳を以て天下を治むるは

孝の徳を以て天下を治むるは  
仁の徳を以て天下を治むるは  
義の徳を以て天下を治むるは  
礼の徳を以て天下を治むるは  
智の徳を以て天下を治むるは  
信の徳を以て天下を治むるは  
忠の徳を以て天下を治むるは  
節の徳を以て天下を治むるは  
廉の徳を以て天下を治むるは  
恥の徳を以て天下を治むるは

































あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり

ひるまゝあつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり  
あつたを後續本井の故を著し教をまゝに傳へり







後る程日蓮大井首敷の七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
法苑通気生為の七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
難より大難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ

後る程日蓮大井首敷

抑我程日蓮大井首敷の七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
て法苑通気生為の七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
内復は是生と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ

日蓮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
後る程日蓮大井首敷の七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
五分細細と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
芳名親境と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
宗名親境と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ  
日蓮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶの七宮と云ふ大難に及ぶ難に及ぶ





身は天羅夜羅... 勢化... 美... 燒...

寛延二己巳歳十月八日

友近松門左衛門作  
富世市中菴漆削

頁八十八

右傳... 然... 瀟... か... 且... 豊竹肥前掾  
江戸本白銀町二丁目  
近江屋  
藤兵衛

